

広陵町教育委員会だより

令和元年 7月号

7月12日発行

広陵町教育委員会

北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001 文責・編集 植村



天の川、楯(かぢ)の音聞こゆ、彦星(ひこぼし)と
織女(たなばたつめ)と、今夜(こよひ)逢ふらしも
(7月の万葉集)

万葉集 巻10-2029 柿本人麻呂

(天の川にかぢの音が聞こえます。彦星と織女は、今夜逢うようです。)

失敗の連続から成功を学ぶ！

月日が流れるのは早いもので、慌ただしく過ごしている間に7月の中旬を迎えました。子どもたちが楽しみにしている夏休みもあと8日ほどで訪れます。

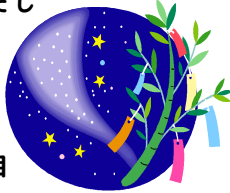
7月7日の七夕とともに24節気の11番目の小暑も過ぎ、いよいよ夏本番を迎えます。

夏休みは子どもたちにとって、開放的な気分になり、これまでの学校生活を含む確立された1日の生活リズムがときとして崩れる場合があります。子どもたちにはこの夏も確かな生活習慣を築いてほしいという願があります。

規則正しい生活習慣というと「早寝・早起き・朝ご飯」という言葉に代表されるように、睡眠と食事が真っ先に思い浮かびます。続いて整理整頓やあいさつ、礼儀などの所作が多くを占めるように思います。

生活習慣づくりは、「生活の感性づくり」でもあります。ここで言う「生活習慣づくり」とは、豊かな感性を育てることです。生活の感性を磨く場は、読書であったり、親との関わりであったり、地域の中での触れ合いであったり、社会体験や自然体験であったりと様々にあります。しかし、関わりのすべてが自分にとって心地よいものではありません。失敗することも対立することも起こるからです。子どもは失敗の連続から成功を学び、対立することで不快の感情を学びます。失敗は新しい行動に挑戦した結果です。失敗をとがめたり、非難したりすると新しいことへの恐れが生まれ、挑戦することに躊躇するようになります。対立を怖がることで困難から逃避する子も出てきます。それでは、これからの長い人生が逃避の人生になっていきます。そのような人生を子どもたちには、決して歩んでほしくありません。

先日の7月4日に町PTA指導者研修会があり、開会行事のあいさつで、私はアメリカの教育学者であるドロシー・ロー・ノルト作『子どもが育つ魔法のことば』の『子は親の鏡』の一節を紹介し、自分の想いをお話しました。



けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになるとげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

(中略)

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

子どもを教え導く立場にある私たち大人は常に心に留めておかなければならない真理がこの詩には含まれています。そして、私は今読んだ詩に次のようなフレーズをつなぎたいと話しました。

素晴らしい体験を積んだ子どもは、

豊かな感性をおぼえる

いろいろと試す機会に恵まれた子どもは、

創造性をおぼえる

失敗を乗り越えることができた子どもは、

強さと優しさをおぼえる

教えるべきことをしっかり教えられた子どもは、

分かるという楽しさをおぼえる

わずかでもできたことをほめられた子どもは、

学ぶ楽しさをおぼえる

子どもたちが本当の「生きる力」を身に付けるのは、学習による知識や技能だけではありません。子どもたちの知らない様々な未知の体験や経験が何よりも大切だと思います。そして、その様々な体験や経験の中で、できたという成功体験は自己の自信や自尊感情を高めますが、それより挫折などの失敗体験を多く経験し、その失敗を乗り越えることができたなら成功体験より、もっともっと大きな強さにつながると思います。この夏、いつもと違う体験・経験を子どもたちに味わわせてみてもらえればうれしく思います。というお話をさせてもらいました。



裏面へ

教育委員会の取組

広陵放課後塾の活動、1学期の内容を終える！

5月8日(水)から始まった広陵放課後塾が7月10日(水)をもって1学期の活動を終わりました。この広陵放課後塾は、今年度、教育委員会の新たな取組としてスタートしました。モデル校として東



広陵放課後塾の一場面(7/10)

小学校の3年生を対象に子どもたちの学力向上を目指した取組で、今後は他の小学校へも広げていきたいと考えています。14人の子どもたちは5つの班に分かれて、教えていただいている先生方の熱心な指導に応えるとともに友達同士の会話もしながら本当に楽しそうに学習に取り組んでいました。

広陵はばたき教室で楽しく学習！！

今年度より真美ヶ丘第二小学校に通級指導教室(広陵はばたき教室)を創設しました。広陵町内の5つの小学校で特別支援学級に入級していない通常学級の子どもたちの中で特別な教育支援を必要とする児童を対象に個々の特性や困難な状態等に応じて具体的な目標や内容を定めて週1回1時間程度の学習活動を行っています。



先日、教室の様子を見に行かせてもらいましたが、子どもたちはいきいきと目を輝かせて先生の言うことをしっかり聞いて学習していました。

すころくで言葉の学習

美浜町の人たちに手話であいさつを！

毎年、町内の小学5年生を対象に地域間交流事業として実施している福井県美浜町での海体験を、今年も7月24日(水)～25日(木)に予定しています。

その事前学習として、4月1日に制定された「広陵町ともにはぐくむ手話言語条例」の取組の一環として手話教室を中央公民館で開催しました。



7月9日付け奈良新聞に掲載

畿央大学手話サークルの学生3人が講師になって基本的な手話とともに挨拶の仕方や自己紹介の仕方を習いました。この成果を美浜町の皆さんの前で堂々と発揮してほしいと思います。

P T A 指導者研修会が開催されました！

7月4日(木)、かぐや姫ホールで今年度のP T A指導者研修会が、P T A会員の方々や教育に関わる方々253人の参加を得て開催されました。今回は家庭教育の重要性をテーマに、「子どもの自立を育む家庭」と題して前東大阪大学学長の一色 尚(たか)先生の講演を聴かせていただきました。講演の中で心に残っているフレーズに、子育てはぶつかり稽古であり、子どもは親の生きる姿から学んでいくため、真摯に生きる親の姿を見せること、愛情を注ぐことと甘やかすことは別であり、何でも満たされる快適な環境はむしろ危険であること、誉めると叱るのバランス、習慣が人をつくるため身の回りのことで子どもにできることは必ずさせる、そして、子育ては子どもに寄り添うだけでは生きる力が培われない、様々な苦勞を乗り越える力を身に付けてやること待ち受けている厳しい社会を生き抜く力になるなど、聞かせていただいていたるほどと思うことばかりでした。



学校・園から



広陵東小学校より

スマホ・ケータイ人権教室

7月11日(木)の5時限目に4・5・6年生を対象に広陵町人権擁護委員会主催のスマホ・ケータイ人権教室が開かれました。はじめにドコモの方からスマホ・ケータイの正しい使い方をDVD視聴とともにパワーポイントで30分ほどわかりやすく説明を受けました。

そのあと、人権擁護委員さんからネットいじめは人権侵害であり、ネットいじめを受けたら家の人や学校の先生、人権擁護委員さんに相談してほしいと話されていました。



真美ヶ丘第二小学校より

ワンワンパトロール隊

7月1日(月)に「わんわんパトロール隊」が来校され、日常の散歩の一環として朝夕に30分～1時間程度、地域の見守り活動をしていただいています。一緒に来てくれたワンちゃんは、子どもたちと地域の方々の距離を、一気に縮めてくれたようでした。

